

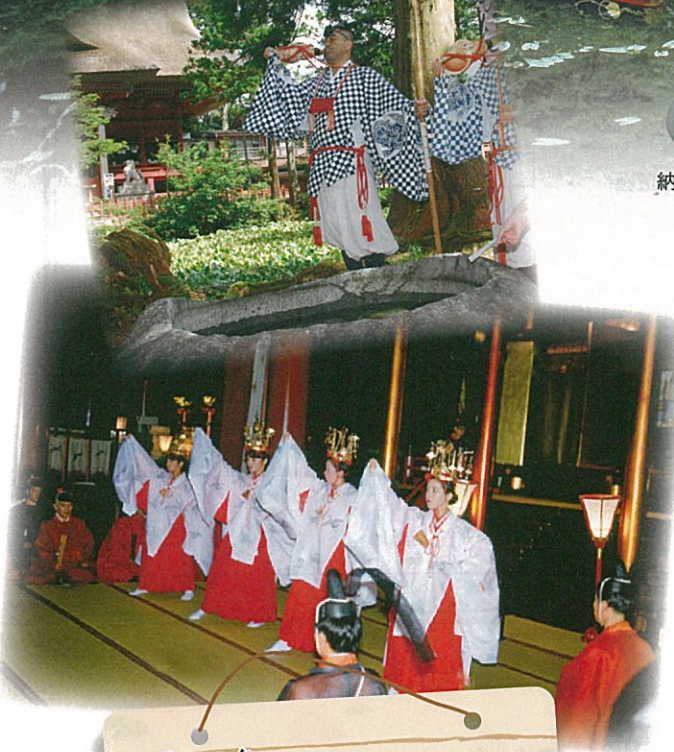
出羽三山神社鏡池特別納鏡

かがみいけこころべつのうさぎ

# 東の奥参り

「人生一度は東の奥参り」

自分かじぶんに会おう旅



納鏡用鏡

睡蓮鏡

御朱印帳

## 東の奥参りとは

東の奥参り鏡池特別納鏡について  
 「鏡池特別納鏡」は現代版「東の奥参り」だけの特別プログラムとして実現しました。

山伏の案内で「鏡池特別納鏡」や「出羽三山神社三神合殿昇殿参拝」、伝統を継承する「東の奥参り特別精進料理」を堪能し、ココロとカラダが嬉しくなるひとときをお楽しみいただきます。鏡池に古来より伝わる納鏡で「かがみ」の真ん中に映る自分に出会えたら素敵です。

関東方面では古くから、出羽三山の登拝することを「奥参り」と称し重要な、人生儀礼の一つとして位置づけ、登拝した者は一般の人とは違う存在（神となることを約束された者）として崇められました。「西の伊勢参り、東の奥参り」西に位置するお伊勢様を意識するように、東に存在する出羽三山を詣でることを「東の奥参り」と称し、伊勢参宮は「陽」、出羽三山を拝することは「陰」と見立て対を成すものと信じられ、一生に一度は必ずそれらを成し遂げねばならないという習慣が根強くありました。

出羽三山を構成する「羽黒山、月山、湯殿山」にはそれぞれ、「現在、過去、未来」の得があるとされ、出羽三山での修行は「擬死再生」（一度死んで再びよみがえる）を体得できるとされています。

羽黒山の出羽三山神社三神合殿まへの鏡池は羽黒神が姿を現す池として信仰され、平安末期より池に鏡を納める池中納鏡が行われていました。江戸時代には池から一万八千面もの鏡が出土したという記録があり、現在は平安時代、鎌倉時代、江戸中期の鏡一九〇面が、重要文化財として歴史博物館に保存されています。

平成 27 年  
**5月1日** から  
**10月31日**  
 までの**毎日**

※写真はイメージです。